

会派視察・研修報告書

会派名 公 明 党

代表者名 寺島 芳枝

1 日 に ち	令和元年 7月26日（金）
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	滋賀県大津市役所
3 参 加 者	寺島 芳枝 渡部 昇 片山 竜美
4 調査・研修の テーマ	「いじめ対策」について
5 主な内容	<主な質問内容> ・いじめ早期発見のために導入した AI について ・LINE をつかった教育相談について ・スクールロイヤーの設置 ・インターネット上のいじめに関する対応について ・その他の大津市の特色ある取り組みについて
6 所感、提言事項、課題等	【議員氏名】寺島 芳枝 <所感> 平成23年10月に生じた市立中学校生徒のいじめ自死事件はその年3月に発生した東日本大震災により多くの人々、子ども達が亡くなった現実自然の脅威に人間の力の限界も突き付けられた後だけに、人間により死に迫いやられる残酷さを見せつけられた事件となり、その後もその教訓を生かせない現実があり、その年4月に議員になった自分の責任の重さを痛感した事も思い出しながらの視察となった。 教育委員会児童生徒支援課の担当者と、市長部局のいじめ対策推進室の担当者の、やれる事はなんでもやる。二つの部署のそれぞれの取り組みによる、見逃さない、との執念も感じられる。 AI による取り組みも大手民間事業者の協力を得て 9,000 件超のデータを基に、ベテラン教師だろうと、若手教師だろうと、エビデンスを基に対処することが出来る様にする、現在分析中との事で 10 月以降の分析結果の公表も注視したいと思う。 LINE を利用した相談事業の気軽さと、対応者の技術などの難しさも感じ

6 所感、提言事項、課題等	る事ができた。圧倒的な相談件数の多さはやはり、重要視するべきと感じた。今ある多治見市の相談体制、子どもの権利相談室の独立した部署は重要であると改めて認識した。二重三重の体制にやり過ぎはない。チームで対応すること、人的配置に予算は不可欠であることなど。 課題は多いが、既存のものにこだわり過ぎない事も必要だと思う。
	【議員氏名】 渡部 昇 <所感> ・いじめ対策の柱「子どもたちの心を育てる」、「教師の心と技を磨く」、「学校の組織対応力を向上させる」を掲げいじめ未然防止を進め、教育委員会と子どもたちが一緒になって進めてみえる感じがした。 ・いじめの疑い事案が平成 24 年からデータ化してあり、多くの事案があるが、もっと事案数をあげて行きたいと、子どもたちのいじめを無くそうとの力強い気迫を感じた。 ・いじめのデータを基に、AI を用いて学校でのいじめの早期発見・早期対処に役立てるとの事で、的確な対処の一つとして良いと感じた。 <提言> *子どもたちと、教員がなんでも話せるように今後も何をすれば良いのか常に考えながらいじめ対策を進めて行きたい。
	【議員氏名】 片山 竜美 <所感> ・「子どもたちの心を育てる」ことと「教師の心と技を磨く」ことや各校に「いじめ対策担当教員」を配置するなど、財政を惜しまず投入しており、H24 年の教訓から、絶対にいじめによる被害者を出さないという執念を感じた。 ・LINE による教育相談は、子どもにとって、気軽に相談できるツールではあるが、運用する側の「質問力」などの技術が必要である。これを導入するには、かなりの努力を要すると感じた。 ・教育委員会といじめ対策推進室が両輪となって、連携しあいながら取り組んでいた。 <提言> *LINE 相談や子ども安全見守り隊などを導入して、いじめの早期発見につなげたい。 <課題> ●財政と人員の確保が必要である。 ●市が一丸となって考え、取り組まないと成功しない。

7 写 真 等

※視察の場合は必須、研
修の場合は任意

